



人生そのもの  
中で学ぶ



川俣越治さん  
(事務局長)

この状態調査を通じて、人間が生きていくとはどういうことなのか、どこに人間らしく生きるための障害があるのか、その中身は、単に「難病」ということだけではく

人のつながり大事  
にする看護師に



笹本澄子さん  
(看護学生)

高齢の患者さんの「もう生きていく意味がない」という言葉を聞いて、どうしたら元気にさせられるのか、病院にいる患者さんが帰っていく地域社会がよくなるためには医療は完全とはい

ない、と考えるようになり、調査に参加して地域に暮らす難病の方の話を聞く、そのこと自体が学びである。暮らしや生活を一言では語れないことばかりでした。当たり前のように見失いがちな、人と人のつながりを大事にする医療従事者になりたい。日常の小さな営みの中に本当の幸せや豊かさがあることも実感し、この体験を社会に

発言と感想

(要旨)

発信していきたい。

難病患者さんに  
金を使うのムダ?



山田歩美さん  
(医学生)

一日中ベッドの上。だれとも会話をせず顔もあわせない。「病気だから仕方ない」という難病患者さんの生活を知り、ショックでした。家から出

日常の診療では  
つかめない

調査の報告を聞いて、振りかえると、日常の診療ではここまでつかみきれない。難病の助成制度は、悪くなると補助があ

前向きにとら  
え生きていきたい



竹崎三立さん  
(医師)

家族にパーキンソンを抱えること。介護する者が抱えている悩みを医師にわかってもらいたいし、精神的ケアもほしい。こうした話は家の中で抱えてしまう。3分間診療でも心があれば、不安は和らぎます。この報告で、前向きにとらえていかなければと感じました。(患者家族)

いま看護学生に  
何ができるか

患者さんのお宅に伺ってライフヒストリーを聞

(1面からのつづき) 身体的にも精神的にもたいへんだし、社会的、経済的なことも含めてたいへんな人たちもいるという、患者さんの状態を聞いたわけですから、話を伺った責任というのがあって。 医療機関だけでなく、やれるというようには全然考えていなくて、いろんなネットワークをつなげ広げて、少しでも豊かな気持ちでくらせるようにしたい。話を伺った責任というのがあって。

●私は、つい最近、潰瘍性大腸炎の難病が通じ、今はリハビリ代710円のみ支払っている。「都の医療券」がきました。今年の9月30日までは安心してステロイド6錠が続けられます。

●13人の患者さんの人生の起伏は大きく、生きるこの大変さを感じる。難病手当てを削った区側の頭には、収入レベルのことしかない。たとえ社会的に一般レベルの収入があっても、生活はつらい。将来の不安や悩みにまで思いが届いていない。彼らこそ、この報告をじっくり聞かせた

●孤立した患者さんを支えよう関係をどう強めるか、今後、医療機関と家族、行政機関、地域の人たちのネットワークに発展させていきたい。

「健友」の月刊化にあたって

「健友」編集委員長

青山 豊次

「健友」が第22号を迎えるところで、ようやく月刊化される運びとなった。この間、努力された関係諸氏に心から敬意を表したい。月一回届くのが待たれるという新聞に

一日も早くほしい。月刊になると、重要な課題などは掘りさげて連続的に追っていくこともできるし、図表なども載せられる。記事が時期おくれでボツになることも

少なくなる。いま編集委員会と編集部は集団で事に当たっているが、その態勢と能力には限界がある。多くのおみなさんの知恵をぜひお借りしたい。



大山津草さん

難病患者さんの状態調査に  
取り組んで  
事務局長

読まれる新聞を作るには一人でも多くの人の参加が必要で、われわれの周囲には、記事にしたいことがあつたたくさんある。苦である。これを拾いあげ、ぜひ原稿(写真も含め)を寄せてほしい。このことを心からお願ひして、月刊化にあつての挨拶とする。 三月一日

健友会 すなっぷ 友の会

手話ダンスサークル  
—城西診療所友の会  
手話ダンスサークルはまだ生まれて1歳4カ月ですが、中野祭りや介護施設訪問、健友会友の会まつりなどに出演。活動の輪をひろげていきます。



チームワークもばっちり  
—桜山友の会  
恒例の「もちつき&バザー」は1月20日(火)80人以上の参加で大盛況でした。次回は、お花

楽しいお食事会  
西荻診療所友の会



地域と一体となって  
—桃井診療所友の会  
約70名が参加、25キロのもち米は6種類の餅に変わり、完売。地域の方々にも好評でした。



服部クン大奮闘

平和地域短信

中野区が成人健診 有料化を断念  
中野区は既に区民の反対を押し切って本年度からがん検診を有料化、来年度からは成人健診も、千三百円を徴収する意向でした。しかし、無料化を求める社協などの陳情書・署名、保険医協会の56人の「院長署名」の提出や、医師会や区民の強い反対で区は有料化を断念しました。

中野区立保育園を守る区民会議が650名の集会  
2月12日、中野ゼロホールに区立保育園の株式会社化の方針に反対する広範な父母、区民、区職員が650名参加。これまでに9万筆を超える署名が寄せられています。杉並大気汚染測定連絡会が3月12日に報告会  
12月に実施した杉並の大気汚染調査結果の報告と講演会を杉並区消費者センターで13時より開催します。TEL(33392) 7786 塩沢まで  
中野社協が8月19日に

総会と年金問題学習会  
総会と小池晃参議院議員(予定)の「年金とくらし」講演。中野サンパラザ8階研修室で19時より開催。TEL(333887) 3051 加藤まで  
阿佐ヶ谷文士村展  
井伏鱒二と青柳瑞穂の初版本と青柳瑞穂の直筆原稿、書簡などを展示します。今後、阿佐ヶ谷文士村の著作物や関係資料を順次展示します。2月20日〜7月14日 中央図書館で。  
(荻窪3-40-23)  
TEL(33391) 5754  
無料当日、直接会場へ  
東京ベーターウェンカルテット3月23日に276回コンサート  
喫茶ミニオン(荻窪) TEL(53993) 93880  
料金2500円飲み物付  
イラク戦争レポート3月24日に学習会  
講師・布施祐仁・平和新聞編集長。中野共立病院地下りハ室で14時より。TEL(63888) 5724 看対・猪股まで

# 今月の健康

## スギ花粉症の話

桃井診療所医師 小浜 肇

### スギ花粉症 調べてなに?

スギ花粉に対してアレルギー体質をもつ人が、原因抗原であるスギ花粉を吸収したり、これと接触したときに、鼻粘膜や目の結膜で抗原抗体反応が起これ、その結果、細胞からヒスタミンを代表とする化学物質が放出され、くしゃみ、鼻汁、鼻づまり、目のかゆみ、目の充血などの症状が出る疾患です。

### スギ花粉症の対策は?

最近スギ花粉症の患者さんは増加しています。原因としてスギ花粉飛散量の増加、大気汚染、生活様式の変化、精神的ストレスの増加などが考えられます。

スギ花粉症の対策ですが、アレルギー体質そのものを治す治療法はまだ確立されていない現在、原因抗原であるスギ花粉の吸入、接触を回避することが、治療と予防の面から最も重要となりま

花粉を屋内までもち込まない注意が重要です。このような生活をきちんと実践しても、スギ花粉を完全に遮断するのはまず不可能で、症状が出現してしまうことが多いのが実状のようです。そこで症状がつかない場合は、薬剤を使用することになります。

### 万一、スギ花粉症といわれたら

現在使われているスギ花粉症の治療薬は、その作用機序の上から二つに分類できます。一つは現在出ている諸症状を軽減させる目的のもの、抗ヒスタミン剤がその代表です。副作用として眠気の出ることが多いので、車を運転するときは注意が必要です。

さらに抗ヒスタミン剤で症状が抑えきれない場合は、より強力な、副腎皮質ステロイド剤を使用することがあります。しかし、これはある量以上を一定期間以上服用し続けること、さまざまな副作用の出現する可能性があるため、医師の管理下で服用すべき薬剤です。最近、副作用の少ないステロイド点鼻剤が使用されはじめ、非常に有用な薬剤となっています。

### スギ花粉症 今年の特徴

前年の夏、気温が高い日が続くと、翌年のスギ花粉飛散量は多いといわれています。昨年は冷夏だったため今年の花粉飛散量は例年より少ないと予想され、症状も比較的軽いことが期待されます。花粉症かと思う症状が出た場合、自己判断せず、気軽に医師に相談することが必要です。



## 紹介 します

### 救急外来

#### の巻



根岸まつみさん（左端）以下救急外来のスタッフ

## 7名が心ひとつに 365日24時間体制



中野共立病院玄関右側の救急外来

中野共立病院救急外来は東京都の二次救急指定病院です。365日24時間体制で、スタッフは救急外来師長の根岸まつみさん以下7名。月平均100台、年末年始は130台の救急車がきます。

救急車で運び込まれた患者さんは、応急処置、各種検査、医師の診察を経て専門の医療機関へ。張りつめた空気のなか、根岸さんの澄んだ声がテキパキと指示し、スタッフは迅速に対処。見事な

チームプレーです。救急外来の仕事はこれだけでは終わりません。◇各診療所の時間外外来の患者さんへの対応 ◇入院・外来患者さんの胃および大腸の検査 ◇入院予約業務 ◇外科手術のスタッフとしての仕事も。責任者の根岸さんは四六時中電話を持ち歩き、昼食中でも呼び出されたら即刻職場に戻ります。

忙しいと緊張の連続にもかかわらず、7名の笑顔は明るく温かい、そして機敏で自信にみちた対応。救急外来としての評価が高いのも、なるほど「と実感しました。」 木村ケイ

# 耳よりな歯の話

川島診療所歯科 永江 陽



健友会唯一の歯科は川島診療所の3階にあります。今回から「健友」に連載で耳よりな歯科医療



事務長ときどき技工士 & フルーティスト

入します。2005年度中には全ての診療所に、病院は新築時に導入する予定です。

電子カルテによって、医師だけではなく全ての職員が医療に積極的に関わり質の向上と患者サービスに役立てます。導入するにあたって、患者情報の保護は大切なことですから十分な配慮と注意をします。



電子カルテを医師と患者さんが一緒に見ながら、治療方針等の相談をしていきます。

### 職員人事

- 定年退職
  - 健友会
    - 組織部長 山下 弘
- 就任
  - 健友会
    - 看護部長 色部 雅恵
    - 組織部長 加藤 秀大
  - 中野共立診療所
    - 看護師主任代行 西 日美子
    - 看護師副主任 中園 英里

連載まんが 第17回

コジマンが 走れ! 訪問看護師

# ドクターの素顔

「患者さんがおふくろやおやじと同じ年頃の場合、自分の親だったらどうするだろうか」と思ってしまう。兄弟が、子供が、もしも同じ病気になったらどうするかとまず考え、客観的に冷静に科学的に判断します」

所長就任の時の野田医師(67)のあいさつは心に残るものでした。

野田医師は、慶応大学医学部の学生時代に「貧しい人びとの生活と健康を守る」セツルメント運動に参加。ここから民医連との関わりが始まったのです。

卒業後、代々木病院に19年、台東区の保健生協病院に19年勤務したあと、桜山診療所の所長に。これほどの超ベテラン医師でも、患者さんの立場に立っているだろうか。「毎日反

省だらけ」だそうです。出身は山梨県で、高校の後輩にサッカーの中田英寿選手がいます。古典落語が趣味、ビデオのコレクションも多いようです。おね

## 楽しい診療所づくりに意欲まんまん

桜山診療所 野田義人医師



「地域のみなさんと患者さんがいっしょになって楽しい診療所にしていきたい。やりますよー」ときっぱり。

桜山友の会 福士リツ

## 読者のひろば

テレビと映画

共立友の会役員 佐藤雄一

昨年12月より毎週木曜日の22時から、フジテレビ創立50周年記念番組として「白い巨塔」が放映されている。先日、新聞



「豊かさって何…」と語る暉峻淑子さん(埼玉大学名誉教授)

## 一人ひとりが行動しよう

恒例の新春講演会(健友会・東医研共催)1月14日、中野サンプラザ研修室)は「本当の豊かさとは何か」と題して、暉峻淑子埼玉大学名誉教授(経済学)を迎え、百二十名を超える職員・友の会員の参加で会場が溢れました。

講演は、サラ金、ホー

大学生がホームレスを回って守り助けをし、難民が流れ込んでくても人権の意識で何とか助けようとする、たとえ失業しても社会が再出発まで暖かく補償する。このよ

## 短歌

共立友の会 小林珠恵子

苔の上の椿の白きを拾ふれば  
花の一生の重たさのあり

この「白い巨塔」は、昭和41年に大映京都で映画化されている。原作・山崎豊子、脚本・橋本忍、監督・山本薩夫、出演は、田宮二郎、東野英治郎、滝沢修、小川真由美、田村高広ほか。先日、中野ツタヤでビデオを借りてきて観賞した。

国立大学医学部の教授選にともなう策略が生々しく描かれ、田宮二郎の白熱した演技は凄い迫力で見応えがある。脚本も見事に整理されていて、娯楽としての見心えを削りあげている。

医学とは、正義とは、という社会性の強い疑問を込めた山本薩夫の最高傑作「白い巨塔」。この



中川先生を偲んで  
中野勤医協・元専務 今井文孝

中川志磨先生に私が接したのはわずか一年余りである。先生は私が後藤診療所に入職した翌68年に胆道ガンで亡くなった。当時は中野勤医協の創設期で、希望も困難も同居していたとき。先生に寄せる職員の尊敬と期

先生は早くも学生時代から「特権階級ではなく、民衆の中に自己を投ずる道」を歩まれ、新潟の五泉診療所の支援に出掛けては小作争議を身をもって体験された。でも、先生は闘士型タイプではなく、細身のお洒落な紳士であり、患者が苦しいのを見ては身銭を切る慈愛深い人であり、いつも「患者の枕辺には、楽天的な医師がいなければならぬ」と笑みを欠かさぬ医師だった。また、中野医師会の会歌を作詞したり、多彩な文筆活動をされた理論肌の文



「あの時代にそっくり」 共立友の会 榎本利枝



2・5ピースキャンドルナイト



山下 弘



編集後記

2004年全国新年号機関紙誌コンクールで「健友」が審査委員特別賞をいただきました。

19・20号の編集を担当させていただきました。新聞づくりは、有意義で楽しいものでした。私自身が、「月刊発行」の認識を深めることができました。ご協力ありがとうございました。